

●卯年の景気

正月なので景気のいい話をしとの編集担当者からのお達しである。最近あまりその手の話は聞かないなと思案していると、あまり縁がなく寡聞であるが先週の新聞コラムに「卯（うさぎ）跳ねる」として、証券業界では卯年は株価上昇の年とされているらしい。

実際に過去60年の年初、年末の騰落率の平均を十二支別に調べると、卯年は3位で23%、1位は来年の辰年で29%と上昇気流になる。逆にさかのぼると昨年の寅年は2%で10位、一昨年の丑年は0%で11位と、リーマンショック以来の低迷がうかがえる数値である。即ち十二支に沿っていえば、丑寅の低迷期のあと卯で跳ねて辰で天に昇るといふ図式になり興味深い。

そこで思いつくまま遡ってみると、前回の卯年は99年、前々年の丑年にバブル期の金融破綻に決着をつけるような北海道拓殖銀行の破綻、山一証券の廃業などがあり、IT産業が本格化し始めた時期であろう。2順前の87年は、銀行の不動産融資が拡大しわずと知れたバブルに向けて地価高騰の始まった時期であり、卯が跳ねた感が強い。3順前の75年（昭和50年）は、高度成長時代が終焉を告げ不況の続いた時期である。昭和46年のドルショック、昭和48年のオイルショックが追い打ちをかけ、土地神話が崩壊し、卯年になっても景気回復には至らなかった。経済の安定成長を模索していた時期である。弊社も苦しい思いをしていた頃である。4順前は昭和38年、東京オリンピックの前年である。高度成長のピークは過ぎて景気は後退局面にあったが、オリンピックを控え東海道新幹線や首都高速道路などの建設が佳境に入り、公共事業が活発な時期で世の中は活気にあふれていた。5順前は昭和26年、60年前で十干は辛（かのと）、干支は辛卯でちょうど還暦となる。前年に勃発した朝鮮動乱の特需が続き、戦後の混乱期からその後の高度成長に繋がる経済安定化の礎を築いた飛躍の年といえよう。

経済学で景気循環を説明するジューグラサイクルは10年周期説である。しかし、こう見てくると、こじつけではあるが十二支サイクルのほうがあつてのような気がしないでもない。いずれにしても、戦後日本の経済発展の礎となった昭和26年辛卯を起点とすれば、どちらのサイクルでも今年が好景気となって、同慶の至りである。ただし近年は、コンピューターではじき出すような金融ゲームが、世界の経済を弄んでるようで、古典的な景気循環説は忘れ去られているが、こじつけでもいいから今年の経済発展を大いに期待したい。

堀田紘之（技術顧問）

●ベトナム運輸省よりメモリアルメダルを受章

2010年12月ベトナム運輸省より、ベトナムの交通運輸分野（交通安全分野）で貢献した人に贈られるメモリアルメダルを、アルメックを代表して受章しました。このメダルは、ベトナムの国のために貢献した個人に授与されるもので、今回はベトナムの交通安全に寄与した6つの機関（WHO、UNICEF、JICA、GRSP、Handicap Internationalとアルメック）の8名に感謝状とメダルが運輸省の副大臣より授与されました。

アルメックのベトナムにおける交通安全分野への関わりは、ベトナムにおいて交通事故が大きな社会問題となる2001年頃からはじまります。JICAのハノイにおける一連の交通安全活動への支援や全国交通安全マスタープランの作成から、さらにJBIC（現JICA）の交通安全円借款プロジェクト立ち上げのために実施された提案型パイロット事業やSAPROFなどにも関わって来ています。

交通安全対策は、「人、車、道路環境」の3つの要素を対象とした総合的な取り組みが求められ関係機関も多岐にわたります。国家交通安全委員会、運輸省、公安省、教育訓練省、保健省などの中央関連省庁、ハノイ市ではハノイ交通安全委員会、交通部、公安部、そして共産党関係機関などとの連携が重要となります。さらに、交通安全対策を支援する世銀やWHO、国際NGOなどとの調整も必要とされています。

アルメック交通安全チームは、幸いにもJBIC関連プロジェクトやJICA全国道路交通安全マスタープラン調査を通じて、国家交通安全委員会や中央関連省庁との信頼関係を構築する一方で、ハノイ市においてもJICAハノイ交通安全人材育成プロジェクトを通じてハノイ市政府関係機関や共産党関係機関からも信頼を獲得することができ、ハノイ市での活動成果を全国交通安全マスタープランへ反映させたり、マスタープランの提案をハノイ市での活動に取り込むなど中央と地方政府との連携にも寄与することができました。さらに、世銀やWHOの活動に参加したり、国際NGOと連携した活動を実施するなど、ベトナムの交通安全分野においてそれぞれのプロジェクトを実施するだけでなく、多くの関係機関の連携を促進する触媒的な役割を果たすことができたと思っています。

コンサルタントとして、与えられた業務を遂行することは責務であり、このよ

うな賞を受けるか否かについては葛藤があったのですが、今回表彰を受ける機関や個人が全てベトナムの交通安全に携わってきた仲間であることから、喜んで受けることにした次第です。今回受章した機関だけでなく多くの機関や組織がベトナムの交通安全に携わっております。その中で交通戦争を乗り越え交通安全対策に大きな成果を上げてきた日本が中心となって、引き続きベトナムの交通安全対策への協力が進められ、インフラ整備と合わせてベトナムにおける新たな交通社会の構築に日本の協力が役立っていくことを期待しているところです。

高木通雅（海外室）

発行責任者：代表取締役 庄山 高司
事務局：株式会社アルメック 業務部
東京都目黒区青葉台 1-19-14
電話 03-5489-3211・FAX 03-5489-3210
Eメール hotnews@almec.co.jp
ホームページ <http://www.almec.co.jp/>

Copyright 2011 ALMEC Corporation. All rights reserved.